

第2分科会 保健管理 名古屋市の提言

保健室の実態把握を基に

「つながる」保健管理

～目の健康を守る活動为例に～



名古屋市立 老松小学校 養護教諭
照井 幸代 氏

視力低下
但呼吸機...
ICT機器
必須.

目の健康守りながら
正しく使う力 身につける.

実態把握

視力検査
目の健康への
指導は...!
ICT機器の
使い方
明瞭さ
目のキヨリ
姿勢
使用時間
休けい

健康相談
4月1日
3名抽出

意見交換

眼科医
近視のリスク
学習方法の助言
学習環境
時間制限
ルール話し合う=大事

環境衛生性検査

月1回 実務 / 安全点検と一緒に
教員への啓発

1week...
目標と
工夫
自分で考える
小さな1歩

集団への指導

ICTが目に及ぼす影響
近視進行のリスク
目の状態に合わせた
正しい方法を知る

自分の課題を知る

ポイントを知れ!
一緒に
振り返り
共有
子ども達に継続して
ために
どうして工夫しているの?
授業の保護者層
から指導をうけて
活用

意識の変容へ

81%が
目標達成!
I-eye.愛 学びシ
達成度の振り返り
良い工夫の共有 学び合
使用時間は
今後必要取り組み!

GF by Mariko Naniwa

提言 No.4

神戸市立泉台小学校 教諭 池内 聡史

教諭 坂井 貴哉

養護教諭 北野 智美

『やさしく・強く・しなやかな いずみっこを
育む 包括的性教育』

神戸市の健康教育推進研究の指定を受け、本校の教育努力目標と実態から「多様な考えを受け入れられる子」の育成を目指す一環として、包括的性教育に焦点を当て、取り組んだ。

包括性教育とはセクシュアリティの認知的、感情的、身体的、社会的側面についての、カリキュラムをベースにした教育と学習のプロセスである。

私たちがもっていた性教育のイメージである、身体や生殖の仕組みだけにとどまらず、人間関係や価値観など幅広いものとなっており、広く人権教育の面も大きくなっている。

まずは包括的性教育について知るため、校内の職員研修を充実させるところから始めた。校外研修に参加できる教員が積極的に参加し、そこで学んだことを校内研修で広めたり、大学の先生を招き、より詳しく学んだりした。神戸市には令和4年4月に改訂された教育委員会発行の性に関する指導手引書があり、学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導案とともに授業で使えるデータ資料も準備されている。本校では、これに加えて、教科横断的に取り組むことができる単元を、年間指導計画に位置付けている。

実際に、国際セクシュアリティガイダンスに基づいて、包括的性教育版のカリキュラムマネジメントを行った。各学年の授業ではキーコンセプトのどれに当たるのかを考え、授業を構想した。

実際の授業実践を報告する。6年生国語科「メディアを活用して考えよう」では、SKY MENUの気付きメモを活用して、LINEのように文字だけでコミュニケーションを取る体験を通し、どんな良い点・悪い点があるのかを意見交流し、相手とのコミュニケーションの取り方を工夫しようとする心情や態度を育てることを狙い、実践した。これからの情報メディアがあふれた社会で生きるにあたって、相手の顔を見ずに文字だけで人間関係を形成する場面が予想され、相手を思う心

情等が大切になるため、「情報通信技術の安全な使い方」「メディアリテラシーとセクシュアリティ」のキーコンセプトに沿って包括的性教育へとつなげた。

2年生の授業実践では、友達をくすぐってけんかになる等のトラブルにつながる事案が度々あった背景もあり、「同意」をテーマに授業を実践した。「～してもいいかな?」「いいよ。」というやり取りを通して、「同意」は自分を守るための大切な言葉であることを学び、自分の気持ちをどのように伝えれば良いかをグループ活動を通して考えた。子どもたちからは、「されて嫌なことは嫌と言っていいことがわかった。」等の感想があった。

成果として、以下が挙げられた。

- ・包括的性教育を年間指導計画に位置付けることができたこと
 - ・従来のカリキュラムの中でも十分取り組めることが分かったこと
 - ・教員の性教育へのハードルが下がり意識改革にもつながったこと
 - ・専門的な立場からの話も取り入れ充実した指導となったこと
 - ・学校図書館や保健室の環境整備にもつながったこと
- 一方で、課題としては、以下が挙げられた。
- ・授業開発やカリキュラムの充実等のさらなるブラッシュアップが必要であること
 - ・地域や家庭への発信の不十分さ

学校内の組織体制の充実や、共通認識を持つことで、連携を深めて取り組んでいきたい。

Q1. 現在、爆発的に梅毒が増えており、学会でも性教育の重要性が言われている。小学生の段階から「体を大事に」「同意」等、とても大切な内容だった。(川崎市・医師)

Q2. 現状進めていく中で考えている今後のことや、他にお話しできることがあれば。(札幌市・校長)

A2. 研究指定はもう外れているが、もう少し課題として挙げた部分等を中心に充実させて取り組みたい。繰り返しやっていくことが大切なので、高学年でも同意やバウンダリーを再度学べるようなカリキュラムを検討している。地域・家庭との連携については不十分だったので、保健だよりや学校運営協議会等で取組を広げて、地域一体となれるよう進めたい。

第2分科会 保健管理 神戸市からの提言

やさしく強く いずみこを育む 包括的性教育



やさしく強くしじやかに
組織的な取組を!

主目的 対話的
包括的 性教育
人権尊重 シンガ平等と多様性

神戸市立泉台小学校
教諭 池内聡史氏 兼 講師 北野智美氏
神戸市立大池様教諭 坂井貴成氏

従来の「キャリアコム」で「文脈」を！

職員研修益実

性に関する指導手引書
+ 1時間 学活の時間
年間指導計画に位置付け
← 教科横断的に取組む →
おぼろしい取組!
学級大いかに
指導している方に
伝えます!!

授業研究と実践

国際セクシュアルリテラシーガイドライン
ICTの安全使用「カ・メ・ゾ・ア・ソ・リ・テ・ラ・シー」
6年生 国語科「メディアを活用して考えよう」
+ 学活 1h
Sky memo SNS 体験
教科書活用
女子生徒とコミュニケーション
どこまでもできる
はばかして
気持ちはわがらはり
話題が移り変わる

性教育! 性教育!
Sc () 朝家 かつ 母
担任に任せよう!
暴力と安全確保
2年生「同表」について考えよう!
同表 気持ちはわがらはり
自分を守る どの様に伝える?
2年生と先生が
おぼろしい!!
個人差が
あります!!

図書館司書連携 開催回増

保健室の環境 居心地よくなる
キャリアコムの「アウツキャスト」
→ 地球家庭の

GF by Maiko Nanima

提言 No.5

福岡市立勝馬小学校 養護教諭 田中 実乃里 『自己の未来を切り拓く勝馬っ子の育成』

今日、急速なICT化や、ゲームや動画等の室内活動の充実、地域のつながりの希薄化、習い事の充実といった時代の変化の影響を受け、子どもたちが外で体を動かす機会が減少している。本校も、交通機関利用登校児童が多いため歩く機会が少ない、外で遊ぶ機会が少ない、小規模校故に集団で行う活動が十分確保できていない等の実態があり、新体力テストでは8種目中5種目で半分以上の学年が全国平均を下回った。運動不足による持久力の低さに加え、運動能力も十分に身に付いていないことがわかり、体力向上のため本主題を設定した。

体力づくりアンケートを実施したところ、多くの児童が体を動かすことが好きと回答した。好きな遊びを問う設問では、児童の興味と、新体力テストの結果がリンクする形となった。以上のことから、児童が継続して日々楽しく行える運動を昼休みの遊びやトレーニングの時間に取り入れることで運動能力を向上できるのではないかと考えた。

体力づくりのために、以下に取り組んだ。

- ①体育の導入として学校で統一した運動を盛り込んだサーキットトレーニングの実施。
- ②業間体育として一輪車等に取り組んでいたが、新体力テストの分析から課題として挙げられた内容を新たに盛り込み。
- ③全校遊びとして2週間に1回レクリエーションを行い、遊びの幅を広げ、遊びとして体を動かすことで運動へのハードルを下げる。
- ④新体力テストにおいて全国平均と差があった3種目を、校内ミニ体力テストとして実施。結果を新体力テストと比較できるように配付し、記録の伸びから自信を付けたり、苦手な種目の確認をしたりする機会とした。
- ⑤保健体育委員会主催の新体力テスト講習会では、先生にコツを教えてもらうことで記録の伸びにつなげ、児童の意欲を高めた。

自分の体や健康について考える取組も行った。

- ①養護教諭が専門的な立場から保健指導を実施。児童の実態調査から睡眠や手洗い等の内容を設定すること

で、意欲的に取り組む姿があった。また、学習の様子を保健だより等で発信したり、児童と一緒に学んだ内容で動画を作り他学年に見てもらったりという活動も入れ、意欲を継続し、学びが定着するよう工夫した。

- ②栄養教諭と連携した食育指導も充実させた。実際にダシを味見したり、箸を持って使い方を確認したりする等、体験活動を通しながら学ぶことで興味関心が深まった。

成果として、アンケートや新体力テストの分析から実態を把握することで目標や内容が明確化されたこと、楽しく運動することが体力づくりの意欲を高めたこと、実際の新体力テストの結果も向上したこと等があった。一方で、課題として、主体的な活動の必要性や、苦手意識を持つ児童への個別支援などが挙げられた。

Q1-1. 運動するとこんなメリットがあるという知識の習得の指導について工夫があれば教えてほしい。(名古屋市・養護教諭)

A1-1. 運動のメリットについて時間をとって授業等はないが、学校全体で取り組んでいるので全教員が運動中に「こういったときは心肺機能が上がるよ。」等、声掛けしながら取り組んでいる。

Q1-2. 毎日熱中症アラートが出て体育も中止になっている現状だが、例えば家庭や屋内でできる運動等で何か取り組んでいることあれば聞きたい。

A1-2. 楽しい曲や掛け声が入った動画等が好評なので、YouTubeのダンス動画等を活用している。

Q2. 低身長・痩せで受診する子の中には食事に興味がなさそうな子も多い。食育に関わって工夫している点や反応を教えてほしい。(新潟市・医師)

A2. 栄養教諭と連携した食指導もあるが、毎日の給食時間も重要なので、毎月の食に関わる全校放送や給食時間の声掛けを大切にしている。子ども自身が給食の時間を楽しい・おいしいと思える雰囲気をつくっていくことが大切。

Q3. 保護者や地域の協力体制について教えてほしい。(神戸市・学校関係者)

A3. 保健だよりや学級通信にも掲載して発信した。保健だよりを見てもらえるように、4コマ漫画を毎月付けていて興味をもつきっかけになればと工夫している。体力に関わる指導ではないが、地域学習等での地域のゲストティーチャーの協力は多く受けている。

第2分科会 保健管理 福岡市 からの提言

自己の未来を切り拓く勝馬子の育成

～よく動き、よく遊び、元気いっぱいの子を育て～



福岡市立 勝馬小学校 教諭
田中実乃里 氏

ONLINE 学習... ICT...
地域のはり
少人数の授業
運動量 ↓

友達と
体遊びの楽しさ
未来への希望
保健だよ！

運動量 ↓

体力向上へ

実態把握

身体活動の
種類は？
運動量 ↓

筋力、柔軟性の種目
苦年...

継続できる運動
体に入らざる

→ 児童が自主的に取り組むために
家庭でできる取り組み
→ Youtubeのダンス
→ 曲も可愛く！

体づくり

遊具を使った
サーキットトレーニング
統一したメニュー

業間体育
→ トレーニング内容の見直し
→ 苦年を取り入れる

苦年を取り入れる
→ 楽しさ
→ 苦年を取り入れる

全校遊び
バリエーション増や
異学年で楽しめる
ゲーム

三二体中テスト
苦年3種類の
判定

苦年3種類の
判定
→ 苦年の判定

新体中テスト
練習会

体や健康に
こだわります

保健指導 → 保健者アンケートなど
子どもの普段の様子
を基に...

食育指導 → 体験しほから
(総合運動会
2020)

目標持って取り組む
全国AVT回3児童(塔)

→ 児童は自ら学習が
苦年意識強い児童の支援

GF by Mariko Nanawa

指導助言

北海道文教大学 医療保健科学部

教授 佐藤 洋子

発表時間20分と盛沢山の内容だったが、発表者の皆さんからは、もっと話したいことがあるという気概を感じた。また、次々と質問や感想が出て、皆さんが本当に興味をもって重要な問題であると捉えていることが伝わり、感心した。

コロナ禍によって、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化した結果、人とのコミュニケーションの取り方や、価値観の形成にも、インターネットで得た不確かな情報の影響が大きくなり、子どもたちを育てていく教師や家庭が、困難さを抱えるという状況を経てきた。

このような状況を踏まえて、特に保健・命を育むことに関わる取組が今日報告されたので、非常に興味深かった。提言者の熱心な発表を受けて、今後子どもたちは変わってくるのではないかと期待できた。

・提言1について

最も感心したのが、必ず評価をして次のステップに移行しているところ。専門職としてのPDCAが良く機能している。家庭に見逃された子が出てきたとき、データを基に、行政に対して「もっとこういった手立てをしてほしい。」と言える材料になるので、ぜひ続けてほしい。一つ気になったのは、学校健診では、何を、何のために調べているのかという啓蒙が学校医から家庭にどの程度されているのか。学校を介してすることになると思うが、そこをもう少し医療の意見として出してほしい。子どもの肥満の問題は将来生活習慣病につながるためとても重要。内分泌学会で要受診の程度等も見られるようになってきているので、そのあたりも保護者へ示してはどうか。

・提言2について

インターネットや漫画等を情報源として、かなり大人びた情報が当たり前のように入ってくる時代。思春期学会でも、現代の子どもたちは、医学的な根拠のない聞きかじった性的な情報により「自分は遅れている」「これが当たり前」等とってしまうことがある現状を指摘されている。確かな情報という位置付けで授業から情報を得られることはとても大切。LGBTQの内容も入っていて、性的マイノリティの問題を多様性と当てはめながら、子どものうちから理解することは非常に重要である。「生きているだけで100点満点」という言葉、本当にその通り。この言葉を力にしながら子どもたちに自信をもって、自分を認めてほしい。専門家による性教育もどんどん活用してほしい。性に関わる問題はタブー視されることが多く、20歳を過ぎても産婦人科を受診しない子も多い。根拠を伝え、少しずつ積み重ねて伝えていくことが大切である。

・提言3について

与えられた課題ではなく、自校の実態から必要感をもって取り組んでいることに感心した。啓発だけでなく、実際に子どもたちに指導しながら具体的に示すのが重要。目標を達成できた子もできなかった子も自分の中で課題が意識されるところがよい。興味関心を得る工夫があちこちに見られた。気になったのは、子どもの意識の問題は評価されていたが、1・2年のスパンでみたときに実際に近視の進行が阻止できていたのか等、客観的にその子にどう還元されているのかという部分が見えるとさらに良い。

・提言4について

性教育という性と性に直結する問題をイメージするが、正しい知識・環境整備・保健室との連携等をポイントに、必ずしも性に直結するわけではない人権・ジェンダー等を基盤として広い意味での性教育のカリキュラムマネジメントが良く機能していると感心した。日本は、国連や子どもの権利条約からみると売春等が多い状況にある。子どもの性を食べ物にし、子どももお金を得るために同意をすることが増えてきており、そのような背景からSTD増加も問題視されている。それらをどう阻止するかは家庭の教育も含め、地域と一体となって変えていかなくてはならない。直接的な性の問題だけでなく、もっと広い意味で、成長していく中のプロセスとして教えていることがとても大切だと感じた。

・提言5について

ICT化が進んでいる中で、遊びの変化・環境の変化・体を動かさない子・家の中で遊ぶ子・人付き合いが希薄になる子が増えてきている状況に注目し、その影響を新体力テストの分析から客観的な指標として出している。改善するためのトレーニング等、地域の利点もうまく活用して進める工夫があった。今後は、子どもたちが学び取ったことを評価の視点でまとめ、客観的なものとして出していくと良い。新体力テストの結果としてはデータが出ているが、外で遊ぶ時間が長くなったという活動の成果だけではなく、それによって体力的にはどうなったか等の子どもの行動変容として変化があったかに注目すると良い。そうすることで何が有効だったか、何が不足しているかが見えてくる。教育の対象者に、何ををもって達成なのか、何ををもってもう少しなのかの判断基準が見えるようにすると良い。

どの取組も熱心で有効であると感じた。ぜひ今後も続けてほしい。健康についての知識がある看護の学生でも、例えば過度なダイエット等を自分の行動として考えることができていないことが多々見られる。小中学生となると、なおさら自分事として捉えることが難しいかもしれないが、例えやゲーム、アンケート等を活用し、興味をもてたり変化していく様子が見えたりするような工夫をして、自分で健康について考えていこうとする気持ちを育てていってほしい。

第3分科会「心の健康」

- <会 場> 4階 平安（錦）の間
- <指導助言者> 藤女子大学 人間生活学部 教授 庄井 良信
- <運営責任者> 札幌市学校保健会 事務局次長 渡辺 一生
- <司 会 者> 札幌市小学校長会 野村 淳一

協議題	児童生徒の豊かな心を育てるための教育活動と支援の在り方	
主 旨	児童生徒の豊かな心を育てるための教育活動と健康課題に対する支援の在り方について協議する。	
協議の視点	○児童生徒の心の健康の保持増進に向けた教育活動と組織体制について ○豊かな心を育てるために関係諸機関との連携した取組について	
口頭提言題 及び 提言者	1	心の健康のために子どもも大人も 学び続ける学校のあり方 ～生命（いのち）の安全教育を通して～ さいたま市立大久保東 小学校 養護教諭 森永 紅瑠実
	2	保護者の視点から本当に必要な きょうだい（Siblings）支援 ～川崎市医師会学校医部会と神奈川県下の家族会共同調査～ 川崎市医師会 学校医部会 佐々木 明德
	3	心の健康・児童生徒の豊かな心を育てるための 教育活動と支援の在り方について 北九州市立大積小学校 北九州市立東郷中学校 学校医 香月きょう子
	4	系統的なカリキュラムに基づいた「心の健康」の指導 広島市立祇園小学校 教諭 関 匠
	5	子どもたちが主人公となる居場所創りと、 対話が繰り返される学校空間創りへの実践 京都市スクールカウン セラー・スーパーバイ ザー 阿部 昇

提言 No.1

さいたま市立大久保東小学校

養護教諭 森永 紅瑠実

『心の健康のために子どもも大人も学び続ける
学校のあり方』

本校はさいたま市の南西部に位置する、全校児童654名の中規模校である。明るく素直で自己肯定感が高い児童が多い一方で、家庭環境が不安定で、人間関係形成の経験の少なさを感じさせる児童も見受けられる。本校は児童養護施設から登校している児童や海外からの編入学の児童も多く在籍している。また身近な大人からの性被害や児童同士でのプライベートゾーンにかかわるトラブルの報告もある。これらの問題を解決するために生命の安全教育を推進しようとしたが、教職員間での理解に差があり、適切な声掛けや支援の仕方が分からないなどの課題が挙げられた。

そこで、「生命の安全教育」の実践のために、①教員自身が自分事として課題を捉え、授業実践ができるようにすること②児童自身が自分事として学んだことを活用できるようにすること、が必要と考え、養護教諭がコーディネーターとして取り組むこととした。

教員が授業実践を行うためには生命の安全教育への理解を深めることが大切であるため、養護教諭と担任と一緒に打ち合わせを行った。また養護教諭から教職員へ研修会の情報提供を行い、参加を促した。実際の被害事例などを専門的な立場の方から聞くことで、重要性を感じる事ができたようである。校内研修では、研究授業の内容検討のために、教職員を対象に模擬授業を実施した。次に授業公開を参観することで、自分の学年やクラスの様子と比較しながら授業を見ることができた。必要な題材や指導内容を、学年ごとに見直し、文部科学省の教材や指導の手引きと照らし合わせて、学校独自の系統表を作成することができた。

1年生では、「じぶんとともだちのたいせつ」という題材で授業を行った。「イヤだなと思っても言えない」という児童が少なくない実態が見えてきたので、「自分と友達の大切なことを見つけよう」「自分と友達の大切を守ろう」をテーマに、適切に対応する力を身に付けさせたいと考えた。友達の身体も自分の体も大切、プライベートゾーンを守ることも大切、触るといふ行為はいけないし、触られたらいやだといふこと

も大切という「伝え合い活動」を行った。結果、教職員には「共通理解が得られた」「指導の手立ての検証ができた」「性被害の視点を持つことができた」等の成果があった。児童には、「自分事と捉えることができるようになった」「身近な存在として養護教諭と関係性が築けた」等の成果があった。養護教諭が生命の安全教育のコーディネーターとして教職員と児童の間に入って、進めていくメリットが見受けられた。

Q1. 実際に被害に遭われた子やどうしても愛着の課題でくっついてしまう子へ、どのような配慮をされたか。先生方とどんな話をして指導ができたか教えていただきたい。(札幌市・養護教諭)

A1. 様々な文化や背景があるのは確かだが、「知っておく」ということが一番大事なこと。担任と授業を考えていく上で、様々あるかもしれないが、まずはやってみようとした。心配な数名の児童については「何かあるかもしれないから、よく二人で見えていこう」と、授業の前に確認した。実施内容に関連する背景がある児童はいないと思いついて授業を行って、実はいたということがあった。小学校6年生に思春期の授業を行ったときにも、助産師と「この学級ではこんな可能性がある、この子が心配」等を打ち合わせしている。大人になってから困らないように授業はするけれど、可能性を想定して観察する、異変があったら個別に声をかけたり、その後の様子を見たりしていこうと話している。

Q2. 「先生方のための視点」を考えていかなければならないということが勉強になった。お話の中で出てきた系統表についてももう少し詳しく教えていただきたい。(福岡市・養護教諭)

A2. どこの学校もそうだと思うが、担任の意識はばらばらだと思われる。私自身もまだまだ勉強が必要だと思っている中だったので、系統表を完成させたいという気持ちで取り組んだ訳ではなく、研究授業をやった「自分のクラスだったらどうしようか」と考えるための手立てとして作成した。各学級の交流をする等、まずは話すことが大事だと思っているので、この系統表はきっかけに過ぎない。自分の学年だけではなく、全学年をみるという視点を持ってもらうために取り組んだ。これが答えではなく、うまくいかないこともあるので、やってみるといふことが大事。

提言 No.2

川崎市医師会 学校医部会 佐々木 明徳

『保護者の視点から本当に必要なきょうだい (Siblings) 支援』

障がいや疾患をもった子どもの兄弟姉妹は「きょうだい」と呼ばれる。親が介護で付きっきりになるため、我慢して生活せざるを得ない子どもが多い。「なぜ自分だけかまってもらえないのか」「自分は必要のない子どもなのじゃないか」等他の子ども達には無い悩みがある。

※アンケートの結果については、研究資料を参照のこと

核家族化と少子化傾向：親以外の家族がいる場合には孤立感を抱きにくく、家族の規模がきょうだいの困難と関係している。きょうだいの幸福のためには規模の小さい家族を支える制度の設立が望まれる。

保護者の悩み：親の苦痛はきょうだいの適応問題に関連すると言われる。きょうだいの健全な成長のために保護者の心のケアに関わる必要がある。

きょうだいの気持ち：乳幼児期には孤立感、学童期にはいじめの対象となる不安感、思春期には自意識の高まりによる諸問題等、感情は発達段階において移り変わる。きょうだい目線で必要な支援を提供する必要がある。

きょうだいの日について：様々な事情で設けられない家庭があるのではないかと。きょうだいの日に公費で看護師や介護福祉士を利用できる制度の必要性は全ての群で高い支持がある。家族との校外学習のため児童生徒が自由に休む日を選べる制度が始まっており、行先や過ごし方に制限はなく事前に届け出れば欠席扱いにはならない県もある。きょうだいの日にも利用できれば支援になると思われる。

教師への相談や関係団体について：「神奈川県下の先生方の知識不足をととても感じる。もっと関心を持ってほしいし障がい児との生活に触れる機会を作してほしい。そしてきょうだいがいる話を聞いてほしい」「医

ケアきょうだいについて、小中学校の先生も基礎知識を持ってほしい」という意見もある。きょうだいの事を誰にも相談できず孤立した家庭の存在も推察される。学校への不適応を増やさないために、相談窓口の設置や家族会の紹介等、プッシュ型の家庭支援を進める必要がある。

学校医に期待する事：未就学児群では「悩みを聞いてほしい。寄り添って気にかけてほしい。心のケアをしてほしい。」等心理面のサポートを期待する意見が多かった。就学児童生徒群・成人群では心理面のサポートとしてより具体的に「事あるごとに、該当児もきょうだい児も褒めてもらえると、存在を誇りに感じられるのではと思います。わたしに褒められるより先生方に褒められる方が嬉しいと思う。」という自己肯定感を高めるための対応が挙げられたほか、「生徒、保護者、先生に病気や障がいは特別でないと教えてほしい。」との意見も寄せられた。

保護者ときょうだいは様々な悩みや不安を抱えており、その感情は障がい児の発達段階で変動していた。きょうだいの問題について相談先が少ない事、支援の社会資源も不足しており、十分な支援があれば保護者やきょうだいの人生に良い影響を与える事が出来る。学校医と教育関係者行政機関は協力して対処する必要がある。最終的には障がい児も健常児も当たり前の世界の実現を望みたい。全てのきょうだいが充実した人生を歩んでほしい。

Q1. きょうだいをもつ子どもたちへのアプローチの工夫があれば教えてほしい。(京都市 学校関係者)

A1. きょうだいをもつ子どもたちは、“あきらめ” “仕方がない” という思いでいる。自己肯定感が低いので、「自分は役に立っている。」「自分は役立つ人間なんだ。」と存在価値を認めてあげることが必要である。「きょうだい」を大切に思うことでよい成長を願っている。

Q2. アンケートに答えたのは家族である。あきらめがあった。回答していない家庭もあったのではないかと。(広島市 学校関係者)

A2. 家族の気持ちの限界点ではないかと考える。家族会に所属していない家庭もあるので、回答していない家族もある。

第3分科会心の贈 『保護者の視点から本当に必要なきょうだい支援』

川崎市医師会
学校医部会

佐々木明徳



何でか心算は兄弟姉妹がいる子

「きょうだいだい」
社会に
知られ
たい

「自分には必要はない」

「おれも自分だけかまえてもらえたい」



あきらめから答えてほしいこともあるから
↓
「家族会」に属している家族にはアンケートを取りたい
「保護者視点で」

インターネット
アンケート
134家族 - 195名

8団体家族会
きょうだいの負担
93% 核家族
少人数家庭を支える制度の必要

保護者の小出し
保護者の体調
経済的不安
きょうだいの負担

親の苦痛
不安感
孤独感
将来への不安
羞恥心

「きょうだいの不安」
「自己肯定感」
「兄弟姉妹の絆」

発達障害による心理的問題
不安
犯罪

「赤ん坊が泣く」
「不安」
「犯罪」

きょうだいの不適応エピソード
不安感 → 不安定な環境
家族危機に合わせた支援必要

「この子は『きょうだい』だから
理解できた
やさしく話した
家族のきずな強くなりた

「きょうだいの日」
親ときょうだいでつなぐ

「7-7-7の日」
きょうだいのこと
相談できる → たい
学校医に期待する
「所」が必要なる環境
「所」がある環境

「7-7-7の日」
きょうだいのこと
相談できる → たい

学校医に期待する
「所」が必要なる環境
「所」がある環境

「この子は『きょうだい』だから
理解できた
やさしく話した
家族のきずな強くなりた

「この子は『きょうだい』だから
理解できた
やさしく話した
家族のきずな強くなりた

GR by Saiko Togashi

提言 No.3

北九州市立大積小学校 北九州市立東郷中学校

学校医 香月 きょう子

『心の健康・児童生徒の豊かな心を育てるための
教育活動と支援の在り方について』

北九州市は、昭和38年に九州で2番目、全国で6番目に政令指定都市に指定されたが、昭和54年をピークに人口減少が続いている。九州最北部の都市で、令和6年1月現在人口913,620人、令和4年の出生数が5,901人、政令指定都市の中で最も高齢化率が高く、31.2%となっている。自死者は平成15年頃をピークに低下したが、令和2年に増加に転じる。20歳未満の自死者は、ここ5、6年では平均5、6人である。不登校児は、全国と同様に増加傾向が続いている。

北九州市では、自殺予防対策の一環として児童生徒に対し、「小学校5年生全員へのスクールカウンセラーの面談」等6つの取組を行っている。また、教職員に対しても「生涯にわたるメンタルヘルスの基礎」「子どもとの温かい人間関係と信頼に基づく教育」等研修会を実施している。

今回は、児童生徒に行っている「生涯にわたるメンタルヘルスの基礎」について紹介する。これは、全市立小中学校において、「だれにでも、心が苦しいときがあるから…」という北九州市が作成したリーフレットを教材として活用し、小学校6年生及び中学校2年生を対象に、担任とスクールカウンセラーが授業を行うというものである。リーフレットの中には、「こころのもやもや度チェック」で自分自身のもやもや度に気付く、「もやもや攻略法」ではどのように対応していくか知る、このことを知った上で北九州市から「伝えたい3つのメッセージ」があり、誰にでももやもやすることはある、でも必ず終わりはある、誰かに相談できる力を持つということを載せてある。また、相談された人はどのように対応したらよいかというところでは、傾聴し、否定しないという姿勢を取りつつも、死という言葉を使う児童生徒に対しては、「あなたのことが大切だから」と伝えるということを解説書の中に載せている。相談しやすい環境を作るために、リーフレットの中に相談できる場所を明確に記載している。北九州市の教育大綱の中では、学校のウェルビーイング

と幸せ感を高めていこうと取り組んでいる。

コロナ禍で制限のある生活をしてきた結果、対人ではか得られない大切なものが欠けてしまった、身体能力が低下してしまった、免疫力が低下し他の感染症が流行ってしまった、ということがみられた。自死者や不登校の児童生徒は横ばいではあるが、これは対策が不必要ではないということである。

Q1. 大阪市では、中学校にはスクールカウンセラーが配置されているところが多いが、小学校はまだ絶対数が足りておらず月4回の来校がほぼ予約された面談でいっぱいな現状である。大阪市も、不登校の数は増加の一方であり、長期休みの前後には電話相談やライン相談の窓口を伝え、タブレット端末でも相談できるような機能を作る等様々な手を打っているが、個人的には対面で・言葉で・人間相手に今の気持ちを伝えることが一番効果的で意味があると考えます。北九州市の公立小中学校のスクールカウンセラーの配置状況はどのようになっているのか。(大阪市 教諭)

A1. 複数校担当しているため小中全校配置ということにはなっていますが、残念ながら、来校は月1回と大阪市よりも少ない。事件や、児童生徒がパニックになるような緊急時には、複数人のスクールカウンセラーが派遣され、対応しているところが多いのだと思う。

Q2. スクールカウンセラーとのTTの授業の中で、子どもたちはどんな姿で相談する力を育てているのか教えてください。(京都市 学校関係者)

A2. 指導場面は見えていないため、答えを持ち合わせていない。

司会

*札幌市では、小学校でのスクールカウンセラー勤務時数が倍になり、大阪市と同程度かと思われる。また、アプリで子どもの心の状態を探る取組が今年度から始まり、子どもたちが朝の自分の状態をクロームブックで入力する。そしてその状態を誰かに相談したい場合は、スクールカウンセラーや担任、養護教諭等選択することができる。今までは直接相談することができなかった子ども、アプリを通して意思表示できるのではないかと考えている。

第3分科会心の健康 北九州からの提言

児童生徒の豊かな心を育てるための 教育活動と支援の在り方について

北九州市立
大積小学校
東郷中学校
学校医
香月 ぎょう子 氏

かつては
八幡製鉄所
人口減

高齢化 31.2% (政令市)

自殺者 183人
R2~R3
コロナ禍
女子増



不登校

2,000人弱
年々↑

本中見直し...
回数は増えた
アグリて回名形式
2人組のセー
支援者
千両式

【北九州市の取組】

- ・スキルカンセー
- ・対人スキルアプ
- ・メンタルヘルス基礎授業

教員+スキルカンセー
協力に
授業を!!

リフレットの活用

- ・心のもやもや度下げ
- ・もやもや攻め法
- ・伝えたい3つのメッセージ
- ・本にもある
- ・必ず録音がある
- ・本かに相談できる!!

Help me!!

相談サポートは

傾聴

石定は...
あたたか
大切
位

「相談」しやすい環境

リフレットに
記載してる!!

北九州市の
教育入網

学校のwell-being
を高める!!

コロナの残したモノ...

身体能力
低下
免疫力
低下

対人スキル
保持
保持
保持

不登校は怖い!!

提言 No.4

広島市立祇園小学校 教諭 関 匠

『系統的なカリキュラムに基づいた「心の健康」の指導』

本校は、落ち着いて学習に取り組む児童が多い一方で、感情のコントロールが難しかったり、生活習慣に課題があるにもかかわらず、改善しようとしなかったりする等、様々な課題を抱えている児童が多く在籍しており、一人一人の健全な発育・発達を促す為に、多様化・複雑化している心身の健康課題の解決に向けた取組が必要となっている。

そこで、本校においては、生徒指導主事やスクールカウンセラー等を始めとする支援体制の充実を図るとともに、「心の健康」に係る取組を行っている。

① 系統的なカリキュラムの作成

児童の健全で豊かな心を育てるためには、以下の3つの内容を重点的に指導することが重要であると考えた。

1つ目は、「睡眠の重要性」である。十分な睡眠を取ることができないと心身ともに疲弊し、イライラしたり不安を感じやすくなったりすることから、質のよい睡眠を適切な時間取ることによって、「心の健康」を保つことができると考えた。

2つ目は、「ストレスへの対処」である。不安や悩み、ストレスを感じた時の対処法が適切でないと、人を傷つけたり、心に溜め込んでしまったりする等、状況を悪化させてしまう可能性があることから、不安や悩み、ストレスと向き合い、自分に合った適切な対処方法を身に付けさせることが「心の健康」に繋がると考えた。

3つ目は、「感情のコントロール」である。怒り等の負の感情と向き合うことや自分と他者の感じ方の違いを理解させることで、良好な人間関係を築くことができ、心身ともに健康な生活を送ることに繋がると考えた。

そこで、この3つの内容を「心の健康」に係る学習として、第4学年から第6学年の学習に明確に位置付け、系統的かつ継続的に実施した。第4学年では、体育科保健領域「体の発達と健康」において、「睡眠の

重要性」の指導を、第5学年では、体育科保健領域において、「ストレスへの対処法」の指導を、第6学年では、特別活動（学級活動）において、「感情のコントロール」として、主にアンガーマネジメントの指導を系統立てて実施した。

② 指導の実際

実際の学習では、学級担任が養護教諭等と連携して、ロールプレイング等を取り入れ、より実践的な活動となるよう、指導方法を工夫した。※指導の実際については、研究資料を参照のこと

③ 授業後の児童の変容

授業実施2週間後に「授業を受けた後に、イライラした時にどのように対処するか（したか）」児童アンケートを実施した。「深呼吸して心を落ち着かせる」と回答した児童が一番多く、次いで、「（一旦時間をおいて、）落ち着く、冷静になる」という回答が多かった。また、授業実施後、イライラする場面に実際に直面した時に、「誰かに相談する」、「数字を数える」等、自分なりの心の落ち着かせ方を実践した児童もいた。授業の中で、怒りの感情に対する対処法を提示するだけでなく、ロールプレイングで体験させることによって、より実践に結び付いていったと考える。

児童を取り巻く環境が大きく変化している中、多様化・複雑化している心身の健康課題に対しては、児童が自ら考え、解決していく力を養っていくことが重要であると考えます。今後も、既存のカリキュラムに終始することなく、絶えず、社会の変化や児童の実態に合わせ、カリキュラムの検討・修正を行い、教育活動全体を通じて「心の健康」に関する指導を実施していくことで、児童が心身の健康を保つことができるよう支援していきたい。

Q1. 感想をお伝えする。貴校は、私の曾祖父が私塾として開設したのが起源となる学校で開校150周年にあたる。私は、小児科医であり、1歳児検診の際、「生活リズムが大切です。早く寝て10時間は寝ようね。」と言っている。成長ホルモンのメラトニンが分泌され、イライラしなくなる。早寝早起きが大切である。（千葉市 医師）

第3分科会心の健康
広島市からの提言

『系統的なカリキュラムに基づいた
「心の健康の指導」』



「自立・協和・健康」

- ・感情コントロール 難
- ・生活習慣に課題

『対策カリキュラム』

- ・算のよいすいせん
- ・ストレスへの対処法
- ・感情コントロール

「心の教育, 係る学習」

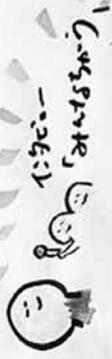
・アングラマネジメント

4学年

養護教諭と連携
「早寝のススメ」
成長ホルモンの出たのちが早い → 検査的
「早く寝るようになる」
検査的

5学年

「ストレスの対処法」
「人それぞれ対処法がある」

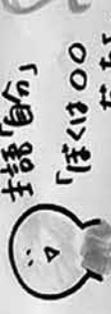


6学年

「感情コントロール」
アングラマネジメント



- ・人に傷つけたい
- ・物とこわこわしい
- ・自己傷つけたい



「ぼくは○○ 怒りの度合？」
「F」

「アングラマネジメントゲーム」



保護者へ
共有する

授業後1ヵ月 (アンケート)
自分なりの解決法を見出すぞ!

多様化 複雑化
⇒自ら考え解決する力



『小学校に入る前から
スイミング授業!!』

『日本人はスイミング時間少ない!!』



提言 No.5

京都市スクールカウンセラー・スーパーバイザー
阿部 昇

『子どもたちが主人公となる居場所創りと、対話が繰り上げられる学校空間創りへの実践』

コロナ禍で、face to faceが難しかった時、カウンセリングの際にパーテーションに魚の絵をかいて水族館に見立てて楽しくカウンセリングを行った。現在不登校、ゲーム依存など様々な問題があるが、これは人と人との絆の希薄化が起因している。コミュニケーションはどう衰退していったかという点、①顔と顔が向き合うことが減り表情で気持ちを伝えることを避けるようになった②二者以上の連鎖が減った③会話が単発の一方的伝達に終わり、意見を交換して相互理解を深める等の対話が減った④多人数で動作を共にし、集団で達成感を味わう感動体験を持つ機会を失った⑤話しかけるタイミングが見つからず、自己開示や援助希求が減った⑥他者同士が会話する場面を目の前にする機会が減り、コミュニケーションスキルを学ぶ機会が減ったことが考えられる。このような中、どのようにコミュニケーションを回復していったらいいのか、ワークショップでの取組をいくつかを紹介する。「全身じゃんけん・顔じゃんけん」は東日本大震災被災地の学校に配付された「こころのサポート映像集」に収録されたストレス対処実践の一つである。「顔面リレー」では、赤ちゃんでもわかる7つの表情から1つを選び、自分の感情体験に基づいて気持ちを伝える。いろんな感情を自分で体験することが大切である。

また友達同士の葛藤場面についての教育プログラムも実施している。「どんな人を友達というのか」というアンケート調査では、コロナ禍の前後で友達の定義が変わってきているようであった。一緒にいる人、一緒に活動する人、気持ちをぶつけ合える人等、人によって定義が違ってきている。友達同士の葛藤場面についての教育プログラムでは、「好き」「嫌い」という意見が違ったとき、教員も話し合いに参加し、相談されたら一緒に悩み考えることで、なかなか答えの出ない葛藤を抱え続けるように、支え合う学校空間づくりを意図している。最後に、教職員の対話を活性化するワークショップでは、「傾聴と助言を重ねることで対話になる」を体験することで、学校全体に良好なコミュニケーション環境を創出することを企図している。

学校で見られる生徒たちの援助希求に円滑に遂行していくためには、事情を抱える児童生徒について共通理解を図るためのコミュニケーションを、教職員が厭わずに容易に行うことができる環境が前提となる。児童生徒の立場からは、話を聞いてくれる教職員の存在や、他の教職員との信頼に基づき、セーフティーネットを築けている学校環境が必要である。

Q1. 児童生徒の心を支えている教諭の心の問題も非常に大きいと思っている。学校保健会や教諭の部会等で、教諭を守ってあげるような機関はあるのだろうか。またそういった場所でのカウンセリングの経験はあるか。(仙台市・医師)

A1. 教職員研修は教職員の支え合いの場である。同じ問題が起こっても、みんなで動ける学校と、一人で抱えてしまう学校との差が大きく、後者は先生方が衰弱してしまう等の悪循環が起こる。コミュニケーションの在り方がうまくいっている学校は、日頃の対人スキルがある。職員室こそ「助けて」と言葉が飛び交うことができる学校であってほしい。一緒に動こうという感情を戻してほしい。職員室もコロナ禍で遠慮するようになってしまった。「働き方改革」がそこに被さって、うまくいかないこともある。

Q2. 先程セーフティーネットを広げるというお話があったが、特に自傷の場合、子どもは「誰にも言わないで。」と言うことがある。それでも、教職員には「この先生だけには」と話をできるが、保護者にセーフティーネットを広げるのが難しい、どうしたらよいか。(福岡市・養護教諭)

A2. 自傷行為をしている子にはリストカットをする意味を話している。人間痛い思いをすると痛みを和らげるホルモンが出て、それとともに心の痛みが和らぐのだが、次はもっと大きく切らないと同じホルモンが出ず、だんだん傷が大きくなって大変なことになる。だから賛成はできないよ、と話をしている。結局自傷行為をする子は心の痛みから逃れたいと思っている。保護者に伝えるにはよく家庭背景を掴んでおいて焦らないことが一番だが、保護者に動いてもらわなければならないときには、子どもが逃げ出したいほどの心の痛みを抱えているということは伝えるべき。どのように、誰から伝えるかは、子どもと話し合いをする。子どもの気持ちを大事にしないで進めると、二度と話をしてくれず、その先が続かない。リストカットをしたら教えに来てよ、と言って教えてくれたら、切ったのは賛成できないけどOK、切る前に来てくれたらもっとOK、と伝える。「こういう時に自傷行為に走る人が多いです。」と伝えたら、その日から親がなぜかお風呂一緒に入ろうって言ってきたり布団に入ってきたりする。子どもは、実は親に気付いてほしいと思っているので、親自身から気付いてもらう仕掛けをする。自傷を止めればいいという話でなくて、自傷をしなくてもいい子になっていくための関係を保護者と結ぶ。そのための努力は盛大にするし、親子で病院受診し、親子だけの時間を作るよう話もする。あとはケースバイケース。それから話せる先生を一人でも二人でも増やそうと話している。

京都市
スクールカウンセラー
スーパバザー
公認心理師
臨在心理士
阿部昇

第3分科会心の健康 『子どもたちが主人公となる居場所創りと、
京都市からの提言』
対話が線り拓げられる学校空間創りへの実践』

「全身じんけん」
顔じんけん
意見が違った時……
一緒に悩む

「心」を元気に
しなさい
人が
喜ぶ
場所
を
つくり
たい

「傾聴」「助言」= 対話
「傾聴」
「助言」
「対話」
「傾聴」
「助言」
「対話」

Face to Face No. 7巻
「傾聴」
「助言」
「対話」

「傾聴」「助言」= 対話
「傾聴」
「助言」
「対話」
「傾聴」
「助言」
「対話」

Face to Face No. 7巻
「傾聴」
「助言」
「対話」

「傾聴」「助言」= 対話
「傾聴」
「助言」
「対話」
「傾聴」
「助言」
「対話」

Face to Face No. 7巻
「傾聴」
「助言」
「対話」

「傾聴」「助言」= 対話
「傾聴」
「助言」
「対話」
「傾聴」
「助言」
「対話」

Face to Face No. 7巻
「傾聴」
「助言」
「対話」

「傾聴」「助言」= 対話
「傾聴」
「助言」
「対話」
「傾聴」
「助言」
「対話」

Face to Face No. 7巻
「傾聴」
「助言」
「対話」

GR by Saiko Togashi

指導助言

藤女子大学 人間生活学部

教授 庄井 良信

『友』という漢字は二人が互いに手を伸ばし合っている様子を表している。手を伸ばし合っているのは、人と人との関係でお互いに何かを一緒に探究していくということ。今日の部会のテーマは心の健康について学び合うこと。コロナ禍を経て、子ども同士の関係、それを支えているはずの保護者同士の関係、地域社会、恐らく職場での関係もとても希薄になっている。未来の社会を先取りして、よりよい社会を築く担い手となる子どもたちを育てる教師という職業。学校が子どもたちにとって「いろいろあったけどよかったな。」という、ウェル・ビーイングな場所になっていくためにも、「先生のことをすごく大事な同僚と思っているよ。」と、教員同士がケアし合いながら心の健康を進めていきたい。

ある小学校で、私が午後4時半頃に着くと、職員が5・6人保健室に集まって、子どもたちの課題について「いやー、参ったなあ。」と話し出す。答えがない中で、私は聞くだけだったが、ある先生は「あなたがそばにいて聞いてくれるだけでうれしい。とっても大事な意味があった。」と言い、随分気持ちが楽になった。それから、少しずつ私も話すようになった。先生方が自分の言葉でゆっくり困りを語り合って、答えは急がずともちゃんと聞いて、分かち合える人がいたことがよかったのである。

“よい存在”とは、自分がまるごと受け入れられるという感覚である。自傷行為のある子に、自傷行為を肯定はできないが否定もしない。「命を大切にしなさい。」と説教するのでもない。普段は明るい挨拶を交わせるような子でも、ギリギリのところでは身体の緊張が高まって、それをスッと緩めようとした瞬間に行うのが自傷行為。ある子は「キラキラとドロドロが一緒になるときに不思議な感覚になる。」と言っていた。どうしたらウェルビーイングになるか、子どもも大人も模索しながら生きている。子どもが自己肯定感をもつというのは、beingとして何ができたかばかりではなく、できる時もできない時も、弱さを抱えた自分も丸ごと存在を認められる一人の人間であるということである。99の失敗をしても、1つのことを何か成し遂げた瞬間がある。安定と不安定を分けなくて、不安を

受け入れながら不安とともに生きていくと何かウェルビーイングという世界が見えてくる。子ども同士の関係も、先生同士の関係もそうではないか。

・提言1について…性的問題について、放置放任したら大変なことにつながるという社会状況を反映している。人間にとって大事なことから、子どもたちのペースで正解を急がずに気付いていく。元気のないときいつでもウェルカムなのが保健室。「うまくやらないきゃ。」と追い込まれている教師同士のケアにもつながる。外国人の子どもがいると身体的な文化の違い等戸惑いもあるだろうが、素晴らしい実践だった。

・提言2について…きょうだい支援は大切。アンケートは保護者対象だったが、子ども対象で実施すると、「きょうだいを大事にしてあげなければ…」と思うと同時に「自分もあれくらい親から大切にしてもらいたい。」と思う複雑な思いが現れてくるだろう。“社会の中に、地域の中に理解してくれる人が必要である”ということに気付かせていただいた。

・提言3について…子どもの心の健康を考えると、先生方や保護者の心の健康も支えることを含めて一緒に考えていきたい。先生方が自然と笑顔になる環境づくりを考えていきたいところ。レジリエンス（弾力性・復元性）は、鍛えてどうにかなるものではない。弱さを分かち合って「この関係なら大丈夫だ。」という世界をつくっていくことが大切。

・提言4について…ストレスマネジメントやアンガーマネジメントは、正面に向かって対するというより、一緒に歩いていくという感覚。心の教育・健康を考えたときに、ネガティブ・ケイパビリティという人もいるが、答えを急がないで、じっくりと待つ指導も必要。

・提言5について…心理教育プログラムを多くの教師が自身の心の健康のために活用してけるとよい。これが正しいと結論付けないこと。なかなか答えがでないことに耐性をもっていくことで見え方が随分違ってくるのではないかと。教師もときどき、いろいろな方々と力を合わせて、当事者の声を聴いて心の健康のために何ができるのかを考えていくことが必要。傾聴と対話と探求を基本に、正解でなく最適解が見付かるといい。

子どもの自己回復力に働き掛ける支援の在り方を一緒に学ぶことができ、一つ一つがとても味わい深いものであった。

第4分科会「地域保健」

- ＜会 場＞ 4階 真珠の間
- ＜指導助言者＞ 北翔大学 教育文化学部 教授 今野 洋子
- ＜運営責任者＞ 札幌市学校保健会 事務局次長 石井 貴司
- ＜司 会 者＞ 札幌市中学校長会 尾崎 英弥

協議題	健やかな児童生徒の育成を目的とした学校・家庭・地域の効果的な 連携の在り方	
主 旨	学校・家庭・地域の連携協働による学校保健活動の推進について協議する。	
協議の視点	○学校・家庭・地域と関係諸機関の連携による学校保健活動の推進 について	
口頭提言題 及び 提言者	1	横浜市内におけるCO ₂ モニターの管理と活用 横浜市薬剤師会 和田 野歩
	2	学校保健委員会を中心とした 学校保健活動の実践 ～健康づくりで学校・家庭・地域をつなぐ～ 熊本市立秋津小学校 養護教諭 松川 亜未
	3	生きる力を育む委員会活動 ～学校保健委員会・生徒保健委員会を通して～ 相模原市立中沢中学校 養護教諭 菊地 麻希 相模原市立若草中学校 養護教諭 土橋 麻貴
	4	自分の健康に関心をもち、 主体的に健康生活を実践できる子どもの育成 ～心と体の体力アップの実践を通して～ 岡山市立山南学園 養護教諭 谷川 憂真
	5	子どもたちの「安心」を中学校区で連携して守る 札幌市立二条小学校 教諭 中塚 宗太

提言 No.1

横浜市薬剤師会 和田 野歩

『横浜市内におけるCO₂モニターの管理と活用』

1. 「空気の見える化プロジェクト」について

令和5年1月から本プロジェクトが開始された。効果的な換気を行うことを目的に、全市立学校509校でCO₂モニターを設置している。これにより、「空気の見える化」を図り、児童生徒の換気の実践や意識の向上を進め、安全・安心な学校環境の整備につなげることができる。各校4台はインターネット接続しCO₂濃度等をWEBに表示できる機種であり、様々な方に安全・安心な学校環境を知っていただくきっかけとして、全市立学校のCO₂濃度等をWEBページで公開している。

2. 教職員への運用状況のアンケートより

成果

空気という目に見えないものの状態がCO₂濃度として数値化して見える化したことにより、教職員自身の意識が向上し、換気の必要性を伝えやすくなった。また、モニターを見ることによって換気の目安になった。

課題

モニターの初期不良や故障、設置場所や接続の問題、アラーム音が授業の妨げになる等が挙げられた。

3. 児童生徒の意識の変化

成果

児童生徒がすすんで窓を開けるようになり、換気しようと声をかけている児童生徒の姿を見たり聞いたりすることが増えた。また、保健委員会の仕事の一つとしたことで、年度末の反省からCO₂濃度を意識する重要性が定着した様子が見え始めた。

児童から担任へ換気の促しをする姿が見られる等、意識の高まりが感じられた。

課題

設置場所や清掃、接続の問題など管理面への配慮が必要であることが分かった。

Q1

①学校担当の方が各学校の数値を見るのか、全体を見ている方がいるのか

②保護者などから「この学校は数値が高い」など指摘はあるのか（広島市 薬剤師）

A1使うかどうかはそれぞれの学校判断である。

①自分が担当している学校の数値をみている。

②意識の高い保護者からは「数値が高い」という声があったりする。「みんなで一緒にやろう」というスタンスで、負担にならないようにしている。

Q2定期検査と日常点検ではどのように分けて評価をしているのか。（埼玉市 薬剤師）

A2日常点検では状況が悪くなっているときに（数値が高くなっている）電話で確認をしている。

Q3初期費用はどこからでているのか？（熊本市）

A3横浜教育委員会の事業なので、金額はここでは分からない。

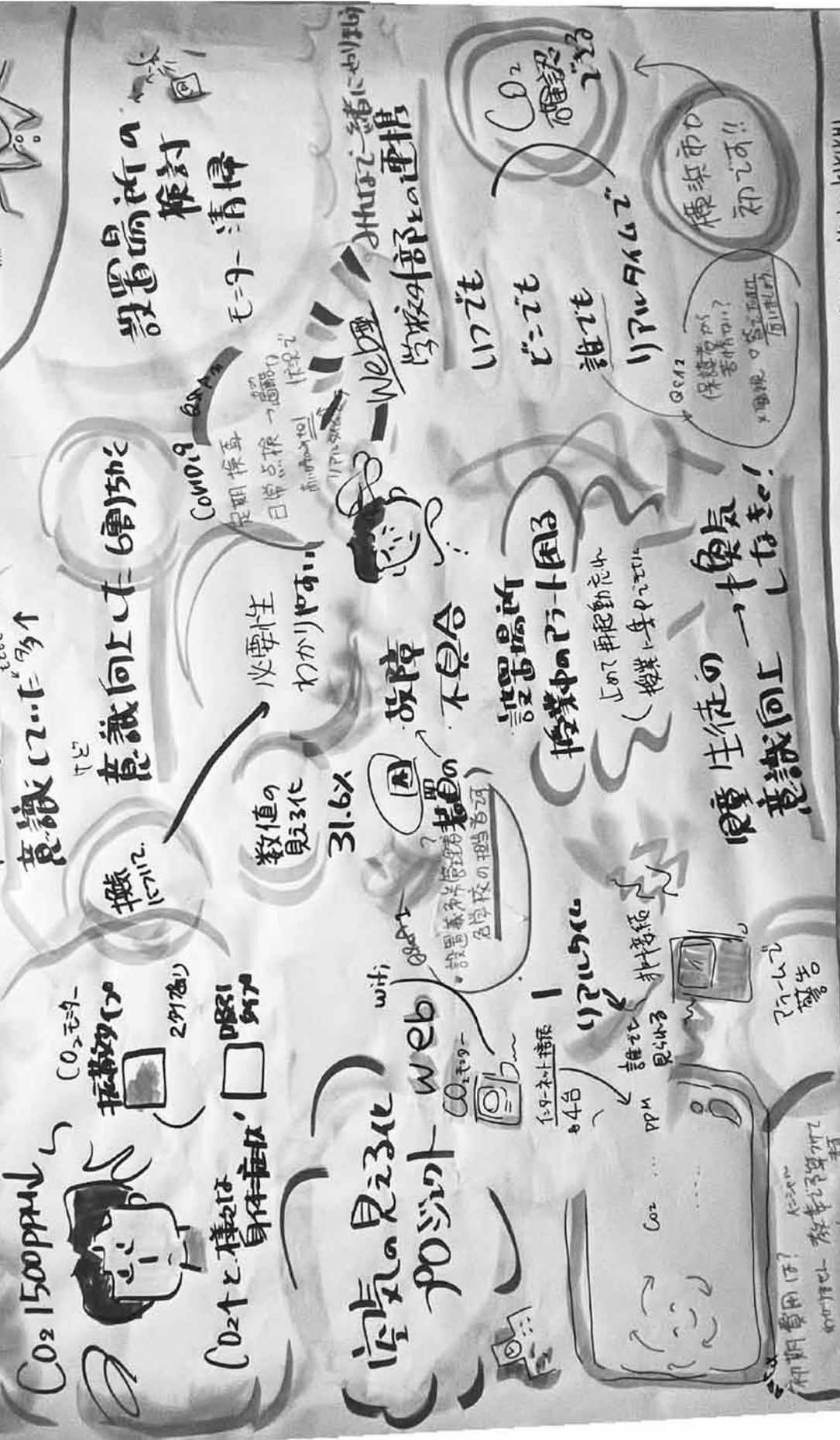


第4分科会 地域保健 横浜市内における

横浜市からの提言

CO₂ モニタの管理と活用

横浜市立
新羽中学校
安和小学校
学校 栗谷利郎
和田 野歩



GR by Naoko KIKUCHI

提言 No.2

熊本市立秋津小学校 養護教諭 松川 亜未

『学校保健委員会を中心とした学校保健活動の 実践』

4校の小学校が9年度に統合予定である。その中学校区での連携したことについて発表をする。様々な連携が考えられる中で、学校保健活動に重点を置いて連携を深めていった。地域加配の小中連携コーディネーターが配置されているという強みを生かして、学校保健委員会を機能させ、そこを中心に活動を進めていっている。

①すこやかアンケート（小学校合同のアンケートを実施）

各校のアンケート結果をまとめると、ゲームやメディアとの付き合い方に課題がある結果になった。そこで、研究のテーマを「心身の健康×メディア」に設定することとした。

②家庭教育学級講演会

家庭教育学級講演会を開催し、児童、保護者、教員で意見交流を行った。

・第1回学校保健委員会でメディアのルールを設定
→2学期に取り組む
→第2回各校の学校保健委員会で作成した1年間の取り組みビデオを視聴し、グループでの意見交流を行った。お互いにアドバイスをしたり、小学校の児童へ中学生からもアドバイスをもらったりすることができた。このような取組を積み重ね、地域全体で子どもを支えるネットワークづくりを行っている。

Q1 地域の人を取り込む動きは以前からあったのか、統合を機に始まったのか（福岡市 薬剤師）

A1 令和3年～令和5年に地域に声をかけ、地域の人たちと共に活動を進めていった。

Q2 どのように地域を巻き込んでいったのか、また、統合のための課題として「保健」を取り入れた理由はあるのか？（横浜市 校長先生）

A2 まずは小学校から中学校へと広げていった。また、加配のコーディネーターがいる強みを生かし、地域を巻き込んでいった。校長会へ参加し、「学校保健でも地域連携をやってみませんか」という声掛けをすることで、動き始めていったように感じている。



第4分科会 地域保健学校保健委員会中心に学校保健の定戦

熊本市からの提言

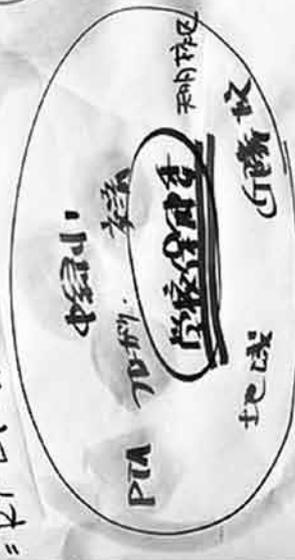
～健康づくりで学校・家庭・地域をつなぐ～

中緑小学校

地域との交流の
小・中・高等学校で可。



外部との関係
= 29 合併症 =



天明地区の子どもたち

中緑小 × 加科 × 伊田 × 天明

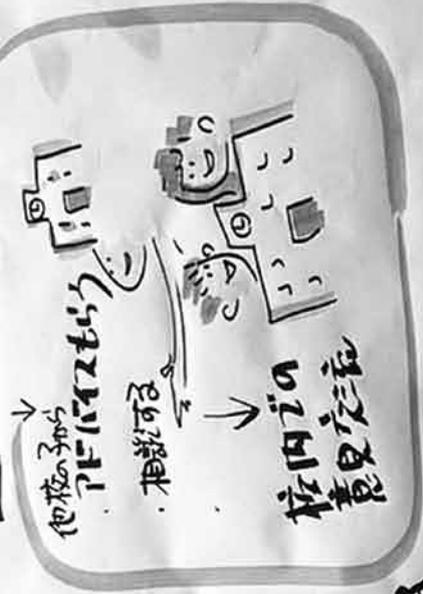
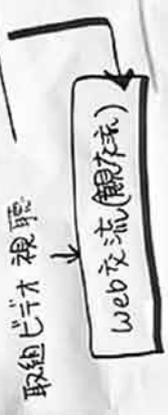
▶ 家庭教育 学級講演会
× びら管理について
→ × びら管理

▶ 学校保健委員会

校庭 上げつ編み
▶ 学校会での話し
ルにできるEメール

学校保健
委員会

in 天用校



熊本市立
秋津小学校
養護教諭
松川 亜未氏

天明地区の子どもたち

地域全体に
行きへ

Q&A

いづつかい?
A
学校保健 地域も
委員会... 地域連携
を主眼に
したい

保健委員会に Q&A

いづつかい?

R4... Q&A
R5... Q&A

一歩で他市/伊田地区
の活用

※ 17の学校だけで
できただけで、ここが
できるわけではない

▶ 地域の子どもの存在が、下の
保健にどう関係する?
松川先生が主に電報している

提言 No.3

相模原市立中沢中学校 養護教諭 菊地 麻希

相模原市立若草中学校 養護教諭 土橋 麻貴

『生きる力を育む委員会活動』

市内中学校10校の養護教諭で「生きる力の育成」をテーマに共同研究を行った。

1年目

各校でアンケートの実施をした。その結果、学校保健委員会のテーマは食育、睡眠、心の健康が多いことが分かった。

2年目

生徒保健委員会の活動内容は健康観察、広報活動、石鹸補充などの点検活動が多いことが分かった。

さらに生徒が主体的に活動するためには？という課題が見つかった。また、生きる力を育む視点をカテゴリー6項目で委員会の活動をふり返ることができた。

3年目

学校保健委員会でも同様に分析を進めた。

4年目

「食事と心の健康」をテーマに設定した中学校を取り上げた。そこで、アンケートや発表を実施 栄養教諭からの講話や講話後の交流も行った

Q1 学校保健委員会への参加のハードルは高いが、「参加してください」と学校から学校医等へ案内をしているのか？（横浜市 学校歯科医）

A1 学校によって異なるのではないかと。市としての指示はないと考えている。学校医等の先生方はお忙しいので、案内してよいのか迷っていることもある。市内で共有していきたい。

Q2 コロナ禍で学校保健委員会を会々とオンラインのハイブリッド開催をしたことがあるが、他の市町村の実態を知りたい。（さいたま市 学校薬剤師）

A2

横浜市：ビデオレターで学校保健委員会に参加したことがある。

熊本市：三師会への働きかけは統一している。オンラインでの参加もある。

仙台市：三師会で呼びかけをされていて参加率は高い。テーマに沿って生徒向け動画を提供している。



第4分科会 地域保健 生きる力を育む委員会活動

相模原市からの提言

(交通手段の不便解消
駅前・山際への誘導)

「生きる力の育成」

相模原市内14校の共同研究

- 1日目 学校把握
- 2日目 生徒保健委員会の活動
- 3日目 学校保健委員会へ活動

1日目 PPT

学校保健委員会の活動内容
生徒保健委員会の活動内容

「生きる力の意識」

教員：生徒が主体で活動するための工夫と工夫

※学校において
取組が様々

～学校保健委員会・生徒保健委員会を通して～

2日目 (JDT福)

(命取はJDT前)

生きる力を獲得するための視点
(社会)

「生きる力の育成」

- 「行動する力」
- 「思考力判断する力」

の育成の多

3日目 学校保健委員会の活動

- 「課題発見(気づき)」
- 「解決(気づき)」
- 「自己提議(気づき)」

4日目 実践

テーマ：(1)健康と食事
(生徒から出たテーマ)

生徒が主体的に活動

「自己提議」
(→他校生との交流)

生徒が
発見し発表
する(共働き)



相模原市立
中沢中学校
志保 麻希氏

相模原市立
若草中学校
志保 麻希氏

発表・講話後の

話し合い → 文書に皆へ周知

生徒が 主体的に 活動する

「地域との連携」も視野に

→ OGA
校区の参加 難しいと学校で
考えている
学校保健委員会
参加はあきらまないと
学校に届けて

「地域との連携」も視野に
参加はあきらまないと
学校に届けて

「地域との連携」も視野に
参加はあきらまないと
学校に届けて

「地域との連携」も視野に
参加はあきらまないと
学校に届けて

提言 No.4

岡山市立山南学園 養護教諭 谷川 憂真

『自分の健康に関心をもち、主体的に健康生活を実践できる子どもの育成』

自校では、体の使い方が不十分で怪我につながるケースが多い。運動経験の不足や、前頭葉機能（心）の発達不全が原因であると考えている。

解決のために、楽しく体を動かすが重要である。身体的、精神的向上を図り、体の使い方が向上するように支援している。

1、運動だんごカードの作成と実施

調査により二つの課題が見えてきた。

- ①体を動かすことが「楽しい」「気持ちよい」と感じる体験が必要である。
- ②行動体力アップが必要である。具体的には、平衡性、移動性、操作性の3要素を行動体力を向上させていくことをねらっている。

2、運動だんごカードの取り組みに向けて

- ・ポスターなどでの啓発
- ・委員会の活動との連携 DVD動画など
- ・地域家庭との連携
- ・中学校区や地域のイベント

成果と課題

体力への良い影響、運動の習慣化、運動することの良さを実感している。ただし、自主的な児童とそうではない児童との差が広がっている。また、モチベーションの維持や地域との連携の在り方を考えていく必要がある。

Q1 どのくらいの期間取り組んでいたのか？また、家庭の巻き込み方にどのような工夫をしているのか？
(横浜市 校長)

A1 1年間実践し、次年度にアンケートを実施した。本研究が終わった後も続けている学校がある。また、保健だよりで紹介したり、PTA総会で運動に力を入れ

ることを説明したりすることで、家庭を巻き込んでいている。お便りなどでも工夫している。

Q2 研究の母体はどこなのか？養護教諭が主体となっているのかを知りたい。(横浜市 校長)

A2 養護教諭と保健主事が主体である。4年研究で発表するのがサイクルとなっている。

Q3 体育主事からアドバイスをもらうことはあるのか？(さいたま市 薬剤師)

A3 体育主任や運動に力を入れている先生の協力を得ている。



第4分科会 地域保健 自分の健康に関心を持ち 主体的に健康生活を実践できる子の育成

岡山市からの提言

① 北区内の子の健康

《課題》

体感不足
楽しく身体を動かす可
= 身体的要素 + 精神的要素

「運動だんご」カード の作成

- ▶ 学年によって分ける
- ▶ 学校において活用できる

身体活動の二要素

→ 量... 質...
基礎的・身体的な知識

《視点》 自主・健康と「目標」

身に持った
主体的・意欲的に
実践・遊んで楽しむ

《視点》 自主 (意志)
↓
遊 (スキル)
↓
楽しむ (楽しさ!)

《手法》

アンケート
↓
分析
↓
実践

《成果》

身体への良い影響

Face book

《課題》

自主的に取り組む人と
取組む人がいない人の差
モバイルコミュニケーション方法
地域に広がる運動の在り方

石井 田代 北区内の子
研究チームは 岡山市は中長期的な視点で
推進する取り組み
他の学生も 教育の場にとどまらず
市民生活にも活用

各学校の工夫

- 児童会が運動内容を作る
- 行事 → 写真
- 記録用紙を作成

各地域での工夫

自主的な工夫
学校でのPTA活動
「ふたばの健康づくり」の作成

提言 No.5

札幌市立二条小学校 教諭 中塚 宗太

『子どもたちの「安心」を中学校区で連携して 守る』

北海道は中学校での不登校が多い。前任校では大きな音や友達の目が気になる児童のためのリソースルームを設置したが、利用数が増加している。

また、卒業後の様子から、担任としてできることがあったのではと考えるようになった。そこで、中学校との連携との連携に力をいれたいと考えた。

①中学校へのスムーズな接続について

・卒業生との交流

校区の中学生が小学校に来校し、6年生に中学校の紹介や小グループでの交流を行っている。小学生が進学前に心の準備をできるようにしていきたい。

・児童会と生徒会の交流

児童会と生徒会で、オンラインミーティングを行ったり、意見交流をしたりしている。

・教師同士の交流

令和6年度から全市一斉に小中での研修を行っている。中学校区ごとに集会の持ち方を工夫し、互いに学びある時間となった。また、同じ、中学校区の小学校同士でのつながりも意識し、交流を進めている。

質疑応答

Q1 小学生が中学校訪問する日もあるのか？（さいたま市 薬剤師）

A1 小学生が担任と中学校へ出向き、授業様子を参観することもある。



④ 高学年の担任が少い可。保健体育も専門可

子どもたちが安心して学校生活を送れるため、小・中学校の連携強化

小中学校の 不登校者数(増)

白楊小(400人 平均的)

《リユースルーム》 教室にいられるほどの居場所、利用者数増

担任は減らさず

中学校へのスムーズな接続

一対一に向き合う

担任外 保健体育教諭の協働



子どもたちの「安心」を 中学校区で連携して守る

札幌市立
二条小学校
教諭 中塚宗太 氏



⑨ 小・中連携
(卒業生との交流)

目的・卒業生を
中学校に紹介する
機会がある

中学生からの説明
交流

小人数での相談会

10分
5分
15分
UP

児童会・生徒会の
交流

本校や他校の
相談事業

教師同士の交流
中学校で大切にしてほしい

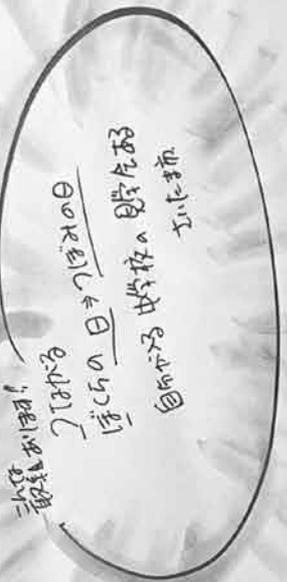
より丁寧な接続

「つながり」が大事

取組の継続・向上に

子どもたちから

・ 地域へのつながり
(小中学校同窓会)



指導助言

北翔大学 教育文化学部

教授 今野 洋子

健康教育を行う上で

- 1 健康への関心
- 2 協同的取り組み
- 3 学校保健活動のさらなる取り組み

これらの視点から、予防的アプローチや習慣化を図っていくことが重要である。

提言1について

コロナ流行から、換気の大切さ、必要性がこれまでよりも話題になることが増えてきている。数値がマークでわかることは保護者にも分かりやすく、時代が求めているのではないかな。

教室の換気の目安は1000ppmである。数値はわかっているがCO₂は目に見えないので装置が必要である。1500ppmを超えると眠くなると言われている。1500ppmを超える前に換気することが重要であると考えている。

→「見える化」の意義 「見える化」することにより、教職員が正しく行動できるだけでなく、児童生徒自らが自分たちの環境に関心をもつのではないかな。

提言2について

今の子どもたちはネットなしではいられない。2歳児でも2時間近く見ている。しかし、親とルールを決めている家庭が少ない。親よりも子の方が使いこなしていることもある。家庭も巻き込んで自分たちでルールを決めることが大切である。

提言3について

学校保健委員会は重要である。設置はしているが開催していない実態が見られるのではないかな。開催のために必要なことは、計画的に学校保健委員会を行い、行事に盛り込んでおく方法がある。また、内容や時間帯に工夫をする。

そして、子どもたちが振り返るためにはポータル

リオや毎年同じフォームを使用するなどが考えられる。子どもたちを巻き込んでいくために、オンライン・オンデマンド・小グループなど開催の工夫をしていくことが大切である。

提言4について

大人自体デスクワークが多く運動不足になっていることが実態である。子どもと大人でスポーツの話をすることが、「運動したい」につながるのではないかな。その輪が保護者と学校、地域がつながっていく。一部で行うのではなく、地域も含めて一体となって行っていくことが大切である。

提言5について

小中連携については検証される段階とはまだなっていない。これからも研究を続けていくべき分野である。中学校進学に向けて、発達の課題としては、心と体のギャップ・バランスが悪いといったことがあげられる。それを補うために、小中の先生でつなぎ、連携を深める効果はあるのではないかな。小中連携のための取組の仕方を工夫する。



メモ

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

要 望 書



文部科学省・日本学校保健会への
要 望 書

令和6年11月

第75回指定都市学校保健協議会

文 部 科 学 大 臣 様

(公財) 日本学校保健会会長 様

第75回指定都市学校保健協議会代表

札幌市学校保健会会長	多 米 淳
仙台市学校保健会会長	安藤 健二郎
さいたま市学校保健会会長	許 重 治
千葉市学校保健会会長	太田 文夫
横浜市学校保健会会長	戸塚 武和
川崎市学校保健会会長	岡野 敏明
相模原市学校保健会会長	細 田 稔
新潟市学校保健会会長	廣 川 徹
静岡市学校保健会会長	戸田 顯彦
浜松市学校保健会会長	滝 浪 實
名古屋市学校保健会会長	加藤 政隆
京都市学校保健会会長	松井 さゆり
大阪市学校保健会会長	高井 康之
堺市学校保健会会長	岡原 猛
神戸市学校保健会会長	松岡 弘高
岡山市学校保健会会長	平 田 洋
広島市学校保健会会長	山 本 匡
北九州市学校保健会会長	穴井 堅能
福岡市学校保健会会長	菊 池 仁志
熊本市学校保健会会長	宮村 健一郎

要 望 書

指定都市学校保健協議会は、大都市学校保健協議会として昭和25年に第1回を開催して以来、今日まで多大な成果をあげ、着実に歩みを進めてまいりました。

この間、わが国は、AI技術を含む科学技術の進歩や産業構造の変化、情報化や少子高齢化の進行、さらには大規模な自然災害（地震・風水害）の発生による甚大な被害等により、経済・社会・環境に急激な変貌が生じております。

政令指定都市においてもその傾向が著しく、児童生徒の心身の健康に多大な影響を与え、新型コロナウイルス感染症をはじめ、疾病や障がいも多様化・複雑化するとともに、いじめや薬物乱用、性の逸脱行動等、精神保健上の問題も多発するなど新たな様相を呈しています。

このような状況の中、学校のみならず家庭や地域での教育の在り方も新たな課題となり、三者が連携を図ることの重要性がより一層増しております。

第75回指定都市学校保健協議会は、去る令和6年7月28日（日）に札幌市において、一斉会同により開催し、全国から学校保健関係者約320名の参加を得て開催することができました。

協議主題を「社会の在り方が大きく変化するこれからの生活の中で、児童生徒自らが健康を創りだす実践力を育む学校保健の推進」とし、課題別研究協議会では「健康教育」「保健管理」「心の健康」「地域保健」の4分科会で各職域の参加者が、それぞれの立場から学校保健安全の今日的課題について協議し、次の事項を決議いたしました。

国ならびに日本学校保健会におかれましては、それぞれの立場で、速やかにこれらの問題解決に効果的な方策を講ぜられますよう強く要望いたします。